

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

1~4 面	創立五十周年記念特集 50 年後も悠然と存在する学園に 副理事長 松田 剛明 写真で綴る 50 年 50 周年に寄せて 卒業生からのメッセージ 松本 純一さん、山口 博之さん、黒田 幸司さん、阿部 展子さん 学生座談会	5 面	杏林見聞録 外国語学部准教授 関 美和
4 面	わたしの書棚から 学長 跡見 裕、図書館課長 諏訪部 直子	6・7 面	学部・大学院トピックス
		8 面	〔連載〕金田一教授の研究室から 「卒業生たち」外国語学部教授 金田一 秀穂 健康ひとくちメモ 「体温と睡眠の関係」医学部准教授 中島 亨 クラブ紹介 ライフセービング部、軟式庭球部

創立五十周年記念特集

未来

はここからスタートする

杏林学園は 2017 年 6 月、創立五十周年を祝う記念式典・祝賀会を京王プラザホテル（新宿）で開催しました。

杏林大学新聞第 18 号は、式典・講演会・祝賀会の様子や写真で綴る 50 年、卒業生の寄稿、そして学生の座談会で学園創立五十周年を特集します。



（上段）祝賀会で歓談する来賓ならびに学園関係者。（下段左）式典会場の演壇には右手に来賓が、左手に学園役職者が着席。（下段中）会場の来賓、学園関係者。（下段右）祝賀会を盛り上げた杏林大学吹奏楽団

50 年後も悠然と存在する学園に



副理事長
松田 剛明 まつだ たけあき

杏林学園は、創立 50 周年を祝う記念式典と記念講演会、そして祝賀会を 6 月 24 日、盛大に挙行了しました。

一連の行事の責任者として、これらが成功裏に終了したことをご報告するとともに、これまで永く皆様方からいただいたご厚情に改めて感謝申し上げます。

記念式典と祝賀会では、多くのご来賓から祝辞をいただき、学内関係者も加え 840 人余りの出席者で賑わいました。

また、藤原正彦お茶の水女子大学名誉教授には「二十一世紀の日本に求められること」と題して講演いただきました。

さらに祝賀会では、4 学部の代表の学生

が今後歩む道について力強く宣誓し、少林寺拳法部やダンス部も登場して、会場は華やかな雰囲気になりました。

大学の使命とは

この席で私は学園がこれからの新たな 50 年をどう進んでいくべきかについてお話させていただきました。

この国の現実を見ると、高齢化が進む中での人口減少や国の債務残高の膨張など混沌とした状態が続いています。暗澹たる気持ちにもなりますが、こうした課題は何としても解決していかなければなりません。

そうした中で大学の役割は重要です。いま一度、我々が肝に銘じなければならないのは、どんなに時代が変化しても、社会を作り、世界を変えるのは人だということ、そして教育はその根幹にあり、人間が学び、成長する場として存在し続けることが大学の使命だということです。

大事ななのは考える力、知性そして独創性

私は本学において、これからの若者たちに待ち受ける、困難な現実を理解させ、どんな逆境にも耐え抜く力を身につけさせたいと思っています。

そのためには、自分で考え、判断する力や行き詰まりを打破する独創性が必要になるでしょう。直面した課題に対し、総合的な判断を下すには一般常識と深い教養が不可欠になります。

大学では様々な専門教育を行いますが、それと同様に重要なことは様々な事柄や問題を、自分の常識にも問い、噛み砕いて判断する力を身につけることだと思います。

その意味で、井の頭キャンパスの開設は、4 つの学部間の交流が一層可能になり、幅広い見識を持つ人材を育てることに寄与すると期待しています。

祝賀会で宣誓した学生たちは、みな明るく素直で元気な素晴らしい学生たちでした。私は彼らと接して、本学が総合大学であるということの素晴らしさを改めて認識

しました。

卒業生とともに、三鷹の地で

成熟した知性や人間性は大学だけで完結するものではありませんが、種を植え、水を与え、見守り、育てるのが我々の役目であると考えます。

私は本学において、学問を通じて教養を深め、他人を思いやる温かい心を持つ、オリジナリティ溢れる人材を多数輩出したいと考えています。

そして、そのような努力を積み重ねた卒業生が私共とともに本学を支え、発展させ、本学が 50 年後、100 年後も、この三鷹の地に悠然と存在していることを私は夢見ています。

以下のリンクから YouTube の杏林大学オフィシャルチャンネルで 50 周年式典ダイジェスト映像がご覧いただけます
<https://youtu.be/IERc2E-4-DI>

スマートフォンや
携帯電話はこちらから





創立五十周年記念特集

式典・講演会・祝賀会 盛大に

記念式典

- ・NHK 交響楽団メンバーによる弦楽四重奏
- ・国歌斉唱
- ・式辞
 - 杏林学園理事長 松田博青
 - 杏林大学学長 跡見 裕
- ・来賓祝辞
 - 厚生労働大臣 塩崎恭久様
 - 日本私立大学協会会長
 - 学校法人文化学園理事長 大沼 淳様
 - テンプル大学日本校学長 ブルース・ストロナク様



松田博青 理事長



塩崎恭久 厚生労働大臣

記念講演会

- ・講演 お茶の水女子大学名誉教授 藤原正彦様 「二十一世紀の日本に求められること」



祝賀会

- ・学園の 50 年（映像紹介）
- ・挨拶 杏林学園副理事長 松田剛明
- ・来賓祝辞
 - 日本私立医科大学協会会長
 - 学校法人獨協学園理事長 寺野 彰様
 - 三鷹市長 清原慶子様
 - 乾杯 杏林大学副学長 ポール・スノードン
- ・学生による宣誓
- ・少林寺拳法部演武
- ・ダンス部演技
- ・校歌斉唱 杏林大学吹奏楽団演奏
- ・閉会の辞 外国語学部長 坂本ロビン



50 周年に寄せて 卒業生からのメッセージ

松本 純一 まつもと じゅんいち

日本医師会常任理事
医療法人あんず会まつもと
クリニック 理事長・院長
(医学部 3 期生)



昭和 54 年に卒業しました。自分で言うのもなんですが、ワタシ人に好まれるタイプのようで、大学にも好かれその愛に抗いきれず、同じ年に入学した友より 1 年長く在籍しました。

平成 26 年より日本医師会の常任理事として、医療保険、労災・自賠責、精神保健、検案等を担当し、併せて介護保険の副担当をしています。大学を卒業した際には、まさか自分が日本医師会で日本の医療政策に関わるとは思いもしておりませんでした。伊勢市医師会の当時の執行部に反旗を翻し、理事に立候補したのが「医師会ごっこ」に染まるきっかけで、会長までさせていただき、医師会立准看護学校の建て替え（新築）を完工いたしました。

そして三重県医師会にご縁をいただき、平成 22 年に副会長を拝命。その後、副会長を兼任しながら日本医師会常任理事に就

任いたしました。

日本看護協会の福井トシ子新会長は杏林大学病院の看護部長だった由。中央社会保険医療協議会でお会いしました。現役時代は存じ上げませんが、私が杏林大卒ということもあって話が盛り上がっています。現在、中医協の委員として診療報酬に携わり、平成 30 年度の同時改定に向けて熱く議論を交わしております。

実は、平成 18 年に私が卒業した高校の創立 50 周年を経験しました。丁度息子が母校の 3 年生で、そのこともあってか PTA 会長は私でした。その式典の祝辞で在校生に向けて「諸君の活躍は我々 OB・OG の誇りである。君たちが話題になることは励みであり、喜びである。」と述べました。今、まったく同じ気持ちです。

先輩諸兄、同級生・後輩諸君が目立つことで、卒業生、在校生そして将来杏林大学で学ぶ人たちも含めて、大げさでも何でもなく、みんなが元気になるのです。

最後になりましたが、杏林大学の医学部に限らず全学部の益々の発展を祈念いたします。おめでとうございます。

創立五十周年記念特集

写真で綴る 50 年

- 1954 年 1 月 三鷹新川病院 開設
- 1966 年 1 月 学校法人杏林学園設立、杏林学園短期大学設置認可
- 1968 年 6 月 八王子に校地購入
- 1970 年 4 月 医学部 開設、翌月より八王子校舎で進学（教養）課程を開始
- 1970 年 8 月 医学部付属病院 開設
- 1971 年 4 月 杏林大学付属高等看護学校 開設
- 1972 年 4 月 医学部、三鷹校舎で専門課程を開始
- 1976 年 4 月 大学院医学研究科 開設



杏林学園創立者
まつだ しんゆう
松田進勇 (1904-1988)

草創期 1953 年—



学園の母体、三鷹新川病院開設

創立者松田進勇が病院構想を説いた 1 年後の 1954 年、三鷹新川病院を開設

整備期 1966 年—



衛生検査技師養成を目的に、杏林学園短期大学開設

衛生技術学科 1 学科のみ。初年度は学生数 62 名でスタート



高等看護学校の校舎

医学部スタート

国民皆保険制度の定着による医師不足を受けて、杏林大学を含む 4 つの大学で医学部設置が決まる

山口 博之 やまぐち ひろゆき

北海道大学大学院保健科学
研究院教授
(保健学部 1 期生)



創立 50 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また保健学部 1 期生として、杏林大学で 4 年間学べたことを大変誇り高く思うと共に、私達を温かく見守ってくださった多くの先生に感謝の気持ちで一杯です。

私達の学舎は、八王子から三鷹に移転し、より機能的で利便性の良い勉学環境が整い、教育の場としてますます発展を遂げることと思います。

早いもので卒業してから 35 年の月日が経ちました。今私は、北海道大学大学院保健科学研究院（臨床検査技師育成のための教育機関）で、微生物間相互作用（細胞内寄生や共生）に興味を持ち、学生や研究室の仲間と日々格闘しています。ミクロの世界で繰り広げられている“闘ぎ合い”は、未知なる生命現象に溢れ、学ぶことへの謙虚な姿勢と生きる上でのヒントを物静かに語っ

ています。

学ぶことの楽しさは、大学時代に体に染みついたものだったのかもしれませんが。

あの懐かしい日々、丘の上にポツンと建つ使い込まれた医学部教養校舎に足を踏み入れたあの日。秋川に続く裏山の小道の斜面にひっそりと、でも力強く咲いていた片栗の群生。研究に明け暮れていた指導教員。裏山の沢で採った沢蟹を肴に先生と酌み交わした酒。辛くても登らなくてはならなかった長い長い坂。校舎の屋上で寝袋にくるまって見上げた流星。国家試験が終わった日の夜、一升瓶を抱えてその日を労うために駆けつけてくれた勝目卓朗学部長。そして一緒に一時を駆け抜けたかけがえのない個性豊かな仲間達。

素直に愛おしいと思える気持ち。些細なことからも学びたいと思える謙虚な姿勢。混沌とした闇の中だからこそ光明を求め彷徨い続ける勇氣。確かにそれらは、遠い学生時代に培った、たあいのないものだったのかもしれませんが。

“雑草のようにたくましく生きよ。”私はこの言葉が大好きです。

建学の精神 眞善美の探究

優れた人格を持ち、
人のために尽くすことのできる人材を育成する

1979 年 4 月 保健学部 開設
 1980 年 11 月 短期大学開学 15 周年、大学開学 10 周年記念式典 举行
 1981 年 10 月 杏林学園創立 15 周年記念式典 举行
 1984 年 4 月 社会科学部 開設（2002 年 総合政策学部 に名称変更）
 1986 年 11 月 杏林学園創立 20 周年記念式典 举行
 1988 年 4 月 外国語学部 開設
 1992 年 9 月 シンボルマーク 制定



シンボルマーク

1993 年 4 月 大学院国際協力研究科 開設
 1994 年 4 月 医学部付属病院 特定機能病院として承認
 2008 年 4 月 大学院保健学研究科 開設
 2012 年 4 月 文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択
 2014 年までに 5 つの文部科学省補助対象事業に選定される
 2016 年 4 月 井の頭キャンパス開設

祝賀会で上映した動画「杏林学園 50 年の歩み」
<https://youtu.be/gt6liDhp3gc>



拡大期 1979 年—

保健学部拡充、社会科学部（総合政策学部）、外国語学部開設

医学領域、自然科学領域、人文・社会科学領域が揃った総合大学へと発展を遂げる



当時の八王子キャンパス



成長期 [1] 1988 年—

大学のユニバーサル化、社会のグローバル化の中で大学改革を推進

教育の質の向上、教育施設の整備、海外交流の促進、科学研究費獲得などを進める



2012 年までに 8 学科 2 専攻に
成長した保健学部



2002 年に学部名を変更した
総合政策学部



2010 年に観光交流文化学科を開設
した外国語学部



キャンパス整備計画に基づき誕生した学生広場「コートヤード空」(八王子キャンパス)

成長期 [2] 1988 年—

特定機能病院として、東京西部地区の中核的医療センターの役割を担う



1999 年に完成した外来棟



三鷹キャンパス全景（2016 年 8 月撮影）



飛躍期 2016 年—

大学改革と確かな実績をもとに教育・研究を加速

がん医療、グローバル教育、地域交流活動などの取り組みが評価され、5 つの文部科学省補助対象事業に選定された杏林大学。伝統を受け継ぎ、次の 50 年、100 年へ向けた一歩を踏み出す



2016 年 井の頭キャンパス開設。
教育・研究機能が学園発祥の地、三鷹
に集結し、更なる飛躍の体制が整った

50 周年に寄せて 卒業生からのメッセージ

黒田 幸司 くらだ こうじ

杏林学園大学事務部長
(社会科学部 1 期生)



私は 1984 年 4 月に社会科学部（現在の総合政策学部）に第 1 期生として入学しました。

当時、バス停は構内ではなく、滝山街道沿いのバス停から急な坂を登りきると校舎が見え、ちょっとした山を登ったような達成感がありました。

3 年生になり運よく田久保忠衛先生のもとでゼミ指導を受けることになりました。ゼミで一番できの悪い私にとって厳しい日々でありましたが、ゼミで先生がおっしゃった「縦軸と横軸の関係を大切にしないさい」「一点だけを見てはいいけない、点と点を結ぶことで線が見える」という言葉は今でも心に刻まれています。

職場に置き換えると縦軸の上司と部下の関係、横軸の他大学の方やステークホルダーの方との関係を大切にすること。

もうひとつは社会の変化の一点だけを見

ても何も理解することはできず、原因や背景等のさまざまな点を結ぶことで全体が分かってくるというように日々の行いに活かされています。

日本の大学において、18 歳人口が減少しているにも関わらず新しい大学や新たな高等教育機関として専門職大学が設立されようとしている一方で、既存の大学は淘汰されています。

先生の言葉をお借りすると、背景には 2016 年に閣議決定された「まち・ひと・しごとの創生基本方針」だったり、1991 年の大学設置基準の大綱化だったりします。その他いろいろな点を繋げることで状況がより見えてきます。

大学はますます社会に対し情報公開や知の提供、そして個性化が求められています。

その中で、本学も社会が求める人材を育成することで社会に貢献し、変化する社会に対応していくことができるよう、私は縦横の繋がりの方をお借りしながら、職を遂行していきます。

阿部 展子 あべ のぶこ

中国四川省・成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地 飼育員
(外国語学部 15 期生)



私が杏林大学の外国語学部を卒業し、ジャイアントパンダへの道を進み始め、既に 11 年の年月が流れました。

私は現在、中国四川省の成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地で飼育員として働いています。飼育員という仕事を通じて、日本の皆さんにジャイアントパンダという動物を知ってもらい、保護の現状やその重要性を伝えていくことを目標に日々の業務に努めています。

私は今でも杏林大学での生活を鮮明に思い出すことがよくあります。特に、大学 1 年生の中国語基礎の授業は今でも忘れられません。中国語の文を完璧に暗記するまでは席を離れられないという、中国人教師による、中国式の厳しい授業スタイルは、当時の私にとってはとても大きな衝撃でした。ですが、厳しい先生方のご指導があったからこそ、もっと中国語の勉強を頑張ろ

うと思えるようになりました。授業中、先生方から中国の様子を聞くのもとても楽しいひと時でした。当時からジャイアントパンダに興味があり、パンダの道に進みたいと先生方に相談したり、スピーチコンテストでもパンダについて発表すると、色々な方が私の夢を後押ししてくれました。

大学 3 年から 4 年生にかけての 11 ヶ月、中国河北省の河北大学での留学生活中、現地で感じた生きた中国語や人々の生活は、その後の私の長い中国生活の大きな礎となりました。留学時には、各国からのたくさんの友人もでき、今でも連絡を取り合っています。

私は、夢があったからこそ、有意義な大学生活を送ることができたと思っています。そして、自分の強みを身につけようと意識しながら過ごすことを心がけました。学生の皆さんにも、今後の学生生活で自分の明確な目標を持ち、自分にしかできないこと、他人にはない自分らしさを身につけていって欲しいと思います。そして、学生一人一人の夢や目標を大事にし続ける大学であり続けてほしいと願っています。

創立五十周年記念特集

学生座談会

杏林に入学して良かったこと

興味あることをとことん追求（松島）
夢と情熱をかなえられる場所（相澤）



松島 朋美 まつしま ともみ
外国語学部中国語学科 4 年
張（宮首）ゼミ。北京語言大学
に 1 年間留学。少林寺拳法部所属。
電子部品専門商社に内定

松島：大学で初めて学んだ中国語にのめりこみ、検定試験にパスしたり、留学したりしたことです。

ゼミや少林寺拳法部の活動を通して、皆で何かをするときは、人に嫌がられても「言うべきことを言う」ことが大事と学びました。

興味のあることをとことん追求し、そうした努力が認めてもらえる喜びを知った大学生活でした。



碓 大毅 いかり たいき
総合政策学部総合政策学科 2 年
GCP 一期生。木暮ゼミ。2017 年
9 月から英国チチェスターカレッジに留学

碓：僕は GCP に出えたこと。英語や外国人に漠然と苦手意識を持っていましたが、杏林でネイティブの先生の授業や留学生との交流を経験して、英語は自分を表現するツールと知りました。

選挙活動をテーマにしたゼミ活動は地域の人たちと関わることも多い。杏林は自分

の世界を広げ、いろいろな人と価値観を共有できる場所です。



伊野 汐美 いの しおり
保健学部臨床検査技術学科 4 年
免疫学研究室所属。保健学部学生会、硬式テニス部で活動

伊野：小さい頃の通院経験から、将来は誰かの役に立つ仕事がしたいと思っていましたが、恥ずかしさもあり、それを人前で言うことはありませんでした。

杏林では皆が同じ目標をもって学んでいるので、自分の気持ちに素直になれます。

また、研究室の田口先生や現場を知る先生が親身に指導や相談にのってくれるので、私にとってもあっています。



相澤 陽太 あいざわ ようた
医学部医学科 5 年
2017 年 3 月、英国レスター大学英語研修参加。6 年の臨床実習は海外で行うことを希望。水泳部所属

相澤：今回のような学部を超えた交流は、規模の大きな大学ではできない、杏林の良い点です。

それから、医学部では一つの講義、たとえば循環器を学ぶときは、病理、解剖、生理、心臓血管外科など多くの教室の先生が担当します。

日ごろからさまざまな人に接しているので、多様な考えがあることがわかります。



祝賀会で来賓、学園関係者を前に宣誓する 4 人。「日本と世界、世界と世界をつなぐ人になりたい」（松島さん）、「立ち向かい、乗り越える“困難”もチャンス」（碓さん）、「人の気持ちがわかる臨床検査技師になりたい」（伊野さん）、「人が好きだから、人を守りたい」（相澤さん）。若さあふれる言葉に会場からは大きな拍手が送られた

こうしたことは、将来医師として、多くの患者に向き合うときに必要なことだと思います。私にとって医師になる夢をかなえる場所が杏林です。

これからのこと

留学で世界の広さを体感したい（碓）
人に優しい臨床検査技師に（伊野）

松島：国内外に拠点をおく専門商社から内定をいただきました。どんな仕事もやるつもりで、学ぶ姿勢を持ち続け、責任あることを任されたり、期待してもらえたりする人になりたいです。

そして、ゆくゆくは会社初の女性海外駐在員になれるといいな、と思っています。

碓：家業をグローバルに展開することが夢です。そのためにまず世界を知りたい。この秋からのイギリス留学で多くの人と交流

し、たくさん刺激を受け、世界の広さを体感してきたいです。

伊野：病院実習で検体は誰かの体の一部であること、パソコン上のデータも誰かの人生を表している重たい数値だとわかりました。いろいろなことがあると思いますが機械的なことなく、「誰かのために」を忘れない、人に優しい臨床検査技師になるのが私の夢です。

相澤：病院実習で命の現場を目の当たりにすると、自然と人に優しくなれます。患者や家族の話をきちんと聞き、病気の背景や原因などを加味してその人の人生全てを診れる医者になりたいです。そのために今は多くを吸収する期間だと思っています。地元の医療に貢献したいと思っていますが、松島さんや碓さんのように、地元から世界に挑戦するのも夢の一つと感じています。

わたしの書棚から

「私の一冊」「人生を変えた本」「私の読書法」など、教職員が自由なテーマで思い出の本を紹介。お薦めの一冊から読書の楽しさを実感してみませんか。



私の読書歴

あとみ ゆたか
学長 跡見 裕

父が開業医で、入院患者や外来患者さん向けに定期的に雑誌を購入していた。

家に雑誌が届くと私が最初にそれを読んだ。『文藝春秋』、『オール讀物』、『宝石』その後『ミステリマガジン』が加わった。小学生にはどうかと思われる内容もあったが、両親は何も言わなかった。『宝石』はすでに廃刊になっているが、当時 横溝正史がおどろおどろしい連載を書いており、毎月の楽しみであった。

母にねだって買ってもらった本の最初の一冊は、今でも覚えている。小学 5、6 年ごろかと思うが、名古屋（中日）ドラゴンズのエースの話で、題名は『杉下茂物語』である。住んでいた田舎の町の本屋ではなく、名古屋にあるデパートの外商の方に頼んでなんとか手に入れたとのことであった。内容は他愛のないものであったが、本当に嬉しかった。

中学時代は吉川英治の『宮本武蔵』、『三国志』、落語全集や講談もの、推理小説系の江戸川乱歩、コナン・ドイル、F.W. クロフツ、エラリー・クイーン、鮎川哲也、高木彬光などを読んでいた。

大学に入学する前後に読んだ本では、『三四郎』（夏目漱石）、『されどわれらが日々』（柴田翔）、『蒼き狼』（井上靖）、『チボー家の人々』（ロジェ・マルタン・デュ・ガール）、『カタロニア讃歌』（ジョージ・オーウェル）などが印象に残っている。どちらかといえば甘酸っぱい感じの本が多い。

医学生時代は学生運動の中で議論に明け暮れていた。どんな本を読んだかというより吉本隆明、高橋和巳、大江健三郎などを思い出す。題名より著者に関心を持ってから読むのであり、消化不良の読書でもあった。

この頃は新書ものが多い。一番印象に残っているのは大澤真幸の『不可能性の時代』であるが、とにかく雑読に徹している。

読書の楽しみ

すわべ なおこ
図書館課長 諏訪部 直子

ハリー・ポッターシリーズの作者、J.K. ローリングは自身の母について、「読むものがないときはお菓子のパッケージに印刷された文字まで読まずにはいられないほど活字中毒だった」とインタビューで語っています。その記事に私は軽い衝撃を受けました。自分と同じことをする人がいて、それが活字中毒と呼ばれることを知ったからです。

中学生のとき、ルーシー・モード・モンゴメリの赤毛のアンシリーズに夢中になり、それ以来、何度も読み返しています。

大人になってからは日本語訳に飽き足らず、原書を読んだり、オーディオブックを聞いたりもしています。モンゴメリの著作は、『可愛いエミリー』をはじめとするエミリーシリーズ 3 巻と『青い城』も隠れた名作としておすすめです。いつかモンゴメリの故郷であり、赤毛のアンの舞台となったプリンス・エドワード島を訪れたいと思っ

ています。

仕事柄、本の情報を得る機会は多いですが、書店や図書館の書棚で偶然出会った本が思いがけずおもしろかったときは、特別うれしく感じます。有吉佐和子の『非色』、ケン・フォレットの『大聖堂』がそんな本でした。

今は小説、エッセイ、ノンフィクション、実用書、ビジネス書など、興味がおもむくままに楽しんでいます。図書館もよく利用します。この原稿を書いている今、借りているのは、『小倉昌男：祈りと経営 ヤマト「宅急便」の父が闘っていたもの』（森健、小学館、2016）、『天才！成功する人々の法則』（マルコム・グラッドウェル、講談社、2009）、『出身地がわかる！気づかない方言』（篠崎晃一、毎日新聞社、2008）、『アルカイダから古文書を守った図書館員』（ジョシュア・ハマー、紀伊國屋書店、2017）と、我ながら脈略がないと感じています。この原稿が活字になるころには、違った種類の本が手元にあると思います。

杏林見聞録

第9回

せき み わ

外国語学部 関 美和 准教授



略歴：慶應義塾大学文学部、法学部卒業。電通等勤務の後、ハーバード・ビジネススクールで MBA を取得。モルガン・スタンレー投資銀行を経て、クレイ・フィンレイ投資顧問東京支店長などを歴任。杏林大学外国語学部にて 2015 年 4 月着任し、「ビジネスイングリッシュ」、「英語文章表現法」などの科目を担当。『ゼロ・トゥ・ワン』（ピーター・ティール著）ほか多数のビジネス書籍の翻訳家として知られる一方、アジア女子大学支援財団の理事を務める

ASIAN UNIVERSITY
FOR WOMEN世界初、全額寄付で女性リーダーを
育てる国際的大学

アジア女子大学は 2008 年、バングラデシュ南東部のチッタゴンに設立される。

最貧国と呼ばれるような国々で高等教育の機会のない女子へ欧米の一流大学に匹敵する教育を提供しリーダーを育成することで、アジアの発展に寄与することを目的としている。

2016 年現在、バングラデシュ以外にもアフガニスタンなどアジアや中東の 15 カ国・約 600 人の学生が在籍し、卒業生は約 400 名にのぼる。

同大学は幅広い教養を教えるリベラルアーツの大学で、授業は英語で行われる。大学の運営費用はすべて寄付金で賄われているため、教育・寮費などは無償。ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ゴールドマン・サックス財団、イケア財団などが支援。関准教授はアジア女子大学支援財団の理事として、この寄付金集めを担当している。

キャンパス紹介

国際交流センター

井の頭キャンパス F 棟 2 階

グローバル化の拠点

国際交流センターと同じフロアには、交流プラザ、中国語・英語サロン、ライティングセンターのほか、同時通訳演習室や CALL 教室といった語学を学ぶ施設が集まっています。

ネイティブスピーカーの教員や留学生が集まり、中国語や英語が飛び交う国際的なエリアです。楽しい出会いがあると思うので、気軽に立ち寄ってください。

留学生活を見守る

国際交流センターの主な業務は、①海外へ留学して勉強したい学生のサポート、②外国人留学生の受け入れ・在留資格管理・奨学金手続など生活全般のサポート、③日本人学生と外国人留学生の交流促進を目的としたイベントの実施などです。

留学者の中には「初めての海外」という学生も多く、パスポートの手配からビザ申請、渡航まで何でも相談に応じています。留学中もメール等を介して対応しています。

アジアで女性リーダーを育てる
“母国に貢献したい”夢を支援するアジア女子大学

教育理念と構想に共感

アジア女子大学の創立者カマル・アーマッド氏は、世界銀行で教育関連の事業を率いていたバングラデシュ出身の弁護士です。大学設立にあたり、彼は高等教育の就学機会がない国で女性リーダーを育成する大学を作りたいという構想を持っていました。当時私はファンドマネージャーとして働いており、その実績を買われ、日本での寄付を集めるのを手伝ってほしい、という依頼を受けました。

その頃はまだ細部まで詰められたものではありませんでした。しかし日本に近いアジアの最貧国、とりわけ女性に特化し、また欧米の一流大学から教員を招くという構想がすばらしいと共感し、その実現にむけて手伝いを始めました。

いまを生きる女性たちのために

アジア女子大学に入学してくる学生はイスラム教圏の国から来る場合が多いです。

文化的、また経済的な事情からアジアの最貧国、特にイスラム教圏では女子の高等教育の機会が少なく、自国では女子の入学枠がとても少ないこともその理由の一つです。

例えば、アフガニスタンから来た学生は、タリバン統治下で女子は勉強を禁じられて

いた状況にいました。彼女は家事が終わると明かりを消して、ろうそくの灯で勉強していました。女子が勉強しているところを見つかると撃ち殺されてしまうような環境で育ちましたが、NGO の協力を得てアジア女子大学に入学し、現在はアフガニスタン政府の麻薬取締局の官僚として勤務しています。

ネパール出身の学生はカトマンズまで車で 3 時間のところで生まれ育ちました。父親が亡くなってからは家族でカトマンズに出て、昼は工場で働きながら高校を卒業し、アジア女子大学に入学しました。

未来を力強く歩む卒業生

入学者は、高等学校相当の教育を受けた学生ではありません。そのため入学前に大学教育を受けるだけの学力があるかどうかのテストをします。合格点に及ばなかった学生のために、1 年間の準備学校「アクセスアカデミー」も作りました。

学生の多くは母国に貢献したいという思いを持っています。そのため約 7 割の学生は卒業後、母国に戻ります。彼女たちは母国で公務員として、あるいは民間企業や NGO で働いています。

残りの約 3 割は欧米の大学院に進みま



す。アジア女子大学はリベラルアーツの大学なので、専門的な研究を志向する学生が大学院に進学します。

私の役割

私は、アジア女子大学支援財団の理事として、寄付のことのみに関わっています。教員でもありませんし、教育の内容や大学の運営についてはまったく関わっていません。

大学の運営は財団からは独立していなければならない、寄付者の意向が大学の運営に反映されてはいけないのです。

毎年 3 月に、寄付を集めるためのイベントを日本で行っています。そこにはアジア女子大学の学生や卒業生も何人か参加します。

その前後 2 週間くらいで学生達と一緒に企業などを訪問して、寄付のお願いに伺います。数年間通い詰めてやっと寄付して下さる企業もあります。

数十社にあたって、成功するのは 1 社か 2 社です。「おカネを出して下さい」とお願いするのは勇気のいることです。断られるともちろん落ち込みます。しかし、一人でも多くの優秀な女性に、高い教育を受けてほしいという思いで、皆さんに寄付をお願いしています。

日本との関係も深めたい

日本の学生も、ぜひアジア女子大学で学んでほしいと思います。またアジア女子大学の卒業生が日本の大学院に進学したり、日本企業で働いたりする機会が作れたら、と思います。今年は 5 人の優秀な学生が夏休みの間に日本企業でインターンをしました。こうした機会をもっとたくさん作りたと思っています。

資金面では、まだまだ盤石とはいえません。いま、新キャンパス建設の構想があります。そのための資金調達に努力する予定です。



今年 7 月に来日したアジア女子大学の学生（前列中央の 4 人）を囲んで。関先生（前列右端）と同大スタッフ



国際交流センターでは年間通して様々なイベントを実施している。「留学フェア」は留学経験者による体験談が好評（左）、国際交流の集いで縁日企画を楽しむ留学生（右上）、校外研修で訪れた静岡県三島市でみかん狩りを体験する留学生（右下）



年度まで文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択され、「世界で活躍する、スマートでタフな日中英トライリンガル」の育成に努めてきました。

外国語学部を中心に進めてきた取り組みですが、グローバル化の機運が全学的に波及し、4 学部において海外留学・研修の参加者がこの 5 年間で約 2.5 倍に増えました。

語学力向上へ意識も高まり、教員・学生・留学生が中国語や英語で会話をする姿も日常的に目にするようになりました。

平成 28 年度に始動した総合政策学部の



スタッフには留学経験があり、語学が堪能な人もいます。左から田村知紀職員、伊藤理恵係長、竹内和佳職員、岩本久美子課長補佐、清水みさ子課長

スタッフの声

- ・留学生は、コミュニケーション力が高いうえ、明るく礼儀正しい人が多い
- ・留学を終え帰国したのち、日本で就職したことを報告しに来ました。この仕事をしてよかったと思う瞬間です
- ・本学での出会いがきっかけになり、国際結婚をした卒業生もいます。うれしい報告の一つです

GCP (Global Career Program) が、留学を推奨するなど、今後も海外留学・研修への参加を希望する学生は増えると思われます。

センターは、これまで以上に留学先やプログラムの充実を図るとともに、危機管理を含めた派遣支援のきめ細かい対応を進めていきます。

また、語学サロンの充実を図り、グローバルセミナーや留学生と在学生の交流イベント等を企画・実施していきます。

学部・大学院トピックス

医学部

学生アンケート評価 3 年連続表彰の小児科学実習

5 年次に行う臨床実習は、これまでに修得した医学知識を、患者さんに接したり、手術見学や救急車に同乗したりするなかでどのように活用するかを学びます。

実習期間は39週。学生は6～7人のグループで28の診療科・検査部門をまわりながら、責任感やチームワークなど医療に携わる人間として大切な能力も身につけていきます。

今回、実習環境や指導方法などを評価する、学生によるアンケートで3年連続 Best Teaching Department of the Year を受賞した小児科学教室の臨床実習を取材。なぜ高い評価を受けるのか指導の工夫などを探りました。

手厚い指導で小児科全般を学ぶ

実習は、病棟医長の保崎 明講師によるオリエンテーションで始まります。実習の意義や病棟・外来実習の諸注意をまとめた資料に基づき、学生に丁寧に説明し、「小児科医を目指す学生は別として、後にも先にも小児科についてみっちり学ぶ機会はおそらくないので、しっかり取り組んでほしい」と伝えました。

学生たちは午前・午後で組まれた日々のスケジュール表をもとに実習を開始。小児診断学の講義、病棟・外来の見学と実習、手術見学などを行いました。このうち、新生児・未熟児集中治療管理室（NICU）では、野村優子講師が学生専任の指導役を務めるなどの体制がとられています。



回復治療室（GCU）で看護師が保育器の中の赤ちゃんを診察する様子を見学する学生たち。小児科では、発育発達段階に応じて特有の疾患や医療があることを知る

さらに、医師や看護師が患者の状態を共有したり、治療事例を発表したりするカンファレンスに参加して小児科医療に関する知識を深めるほか、救急科、脳神経外科のように当直も体験します。

家族やスタッフとのコミュニケーションが大切

NICUの細井健一郎講師が、「多くのスタッフが、ここで過ごす子どもたちと家族を見守り、寄り添っている」と言うように、入院中の子どもたちのみならず、両親・家族とコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが特に小児科医療には必要です。

また、小児科は新生児から15歳までの身体と心のすべての領域の診療を行うため、疾患に応じてお互いの専門領域の知識を教え

合いながら、包括的な医療を行います。そのため、他の病棟に比べて多くの医療スタッフが関わることになり、スタッフ同士のコミュニケーションはとても重要になるのです。

小児科学教室の楊 國昌教授は、「専門分野が異なる教室員同士だが、お互いに積極的にコミュニケーションをとっている」と話しています。そして学生に対しても、「クラスの仲間、クラブ活動の仲間を大事にすることで、普段からコミュニケーション力を高めてほしい」と話します。

学生指導医を配置する手厚い体制をとり、診察・治療に必要なコミュニケーションを日頃から重視する小児科学教室。こうした積み重ねが、学生アンケートで高い評価を得ている理由の一つのようです。

保健学部

2018 年 4 月、臨床心理学科を開設

新設の 国家資格に対応



おおたき じゅんいち
保健学部長 **大龍 純一**

2018 年 4 月から保健学部臨床心理学科を新規開設することになりました。

この学科は2018 年から始まる国家資格である「公認心理師」を念頭においての新学科です。「公認心理師」と似た資格に「臨床心理士」がありますが、この2つは全く別の資格です。

今まで心理学を勉強した学生の社会進出を見ると、保健医療・福祉・教育・司法矯正・産業の5つの領域を中心に活動していますが、現状では約40%が保健医療分野で活動しており、今後も同様の活動が期待されています。

保健学部で臨床心理を学ぶ意味

心理学を学ぶ場には大学や大学院がありますが、わが国では伝統的に文系に位置づけられ、心と体を切り離し、心の面を重視した教育が行われてきました。そのため保健医療分野において、心理職は心のみを問題とし、身体問題はそれほど考慮しないと見なされることもありました。

しかし、脳科学の驚異的な進歩と共に欧米では、心理学は行動の科学、認知の科学として発展し、理系分野と合体して人々の生活に密着した学問へと進化しています。

今後わが国でもその方向へ大きく舵を切ることは、火を見るよりも明らかとも言えます。

多職種との連携・協働の要として
次に保健医療領域で心理職との協働が期待

されている疾病の例として、最近増加傾向のある「薬では治らないうつ病」が挙げられます。

うつ病に関しての治療方法は、十分な休養と必要な薬の服用ですが、これでは対処できないうつ病が増加しています。

これらの患者には心理職との協働した治療法が必要とされるなど、心理職は多職種連携および多職種協働の要としての役割も重要視されています。このことは何も精神科領域のみに留まらず、一般病院でのチーム医療にも大きく関与していくことが考えられます。

広がる役割・チーム医療への貢献
チーム医療を担う医療従事者の活動は、高い倫理性と安全性が求められ、医療法や医師法などの下に、専門職として規定されている国家資格取得者で構成されています。

そのため、法律による規定がなく、質の担

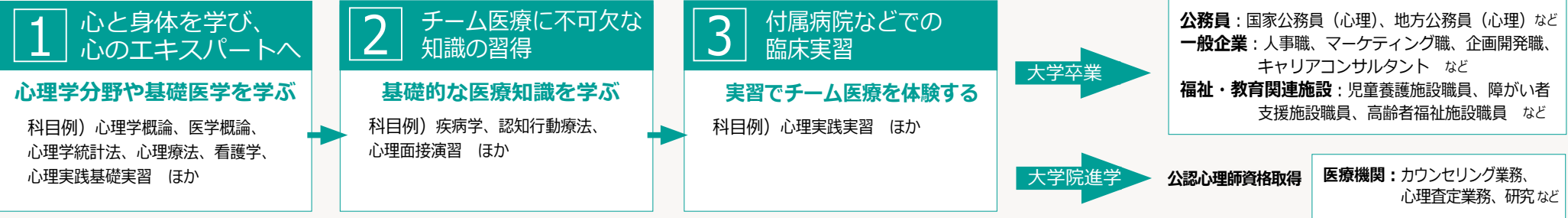
保もされていない心理職がチーム医療に参画する場面はそれほど多くはありませんでした。

心理職の専門家として
2015 年 9 月 9 日、医療を担う心理専門職の国家資格「公認心理師」を定める法律が可決成立しました。

社会における心の支援の必要性が訴えられて成立したもので、さまざまな領域の心理的支援を網羅する資格となっていますが、特に保健医療領域に関しては、心理職の専門家としてチーム医療への参画が容易になり、さらに質の高い医療の提供につながるものと期待されています。

近い将来、本学で学んだ「公認心理師」が大活躍する姿を、皆さん方と一緒に見ることになると思っています。

臨床心理学科の学び



学部・大学院トピックス

総合政策学部

ゼミナール間の交流を進める「ゼミ連」



「総合政策学部をより元気にするために頑張っています」と話すゼミ連執行部の皆さん。上写真左から、前田陸さん（2 年）、長谷川透吾さん（2 年）、高橋光海さん（3 年）、鮫島菜々さん（3 年）

オープンキャンパス キャンパスツアー キャンパスの魅力を学生目線で伝える

7 月 30 日（土）、8 月 6 日（日）、8 月 19 日（土）のオープンキャンパスでは、来場した高校生と保護者向けにキャンパスツアーを行いました。

昨年度の実施内容を参考にツアー場所を選び、コースを組み立て、学生がガイド役を務めました。

ツアーは図書館 2 階のラーニングコモンズからスタートし、約 20 分かけて大教室やマルチメディア教室、国際交流プラザ、英語・中国語サロン、そして学生食堂を案



「6 棟の校舎のうち、総合政策学部の学生は 4 棟を主に使います」と案内する鮫島さん（右）

総合政策学部には学部創設当初から続くゼミナール代表者連絡会、通称「ゼミ連」という組織があります。

32 のゼミナールの交流が活動の主な目的で、大学生活に慣れてもらうための「新入生歓迎会」、ゼミナール間の交流や研究活動の促進を図る「ゼミナール活動・紹介発表会」、ゼミやクラブ活動でお世話になった先輩の門出を祝う「卒業パーティー」の企画・実施をしています。



内しました。

ガイド役を務めた鮫島さんは、多いときは、1 回に 15 人ほどの高校生や保護者を案内しました。はっきり声が届くように説明のときは列の中央で説明をしたり、「次の見学場所はすぐ上の階です」など移動の目安を知らせたりしました。

参加者にわかりやすく説明しようと、歩くペースを合わせたり、ガイドする側になってみて、初めて気づくことも多かった案内役の学生たちでした。



明るく開放感のある学食は見学者に好評

外国語学部

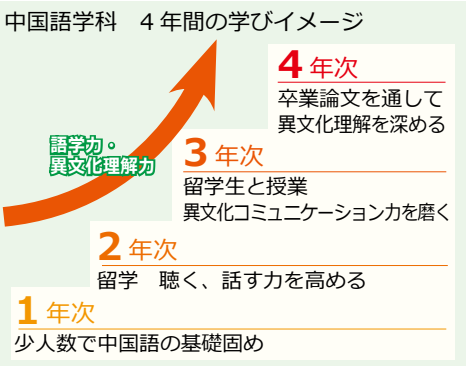
中国語学習に最適な環境 留学生と学び 深まる異文化コミュニケーション力



3 年次前期の授業「中国語通訳概論」。留学生らを前に中国語でプレゼンテーションをする伊保風香さん

中国語学科は、1 年次に少人数で中国語の基礎をしっかり身につけ、2 年次で留学をし、3・4 年次で中国人留学生と共に授業を受けるという実践的なカリキュラムを組んでいます。

中国語の経験が全くなくても、4 年間でネイティブとコミュニケーションがとれる程の語学力を身につけ中国およびグローバル社会への理解を深めることができます。



通訳技術と異文化理解を 深める「通訳概論」

外国語学部には、協定校の北京語言大学や上海外国語大学、広東外語外貿大学、大連外国語大学など中国各地からの留学生が多数在籍し、約 40 名が日本人学生と共に学んでいます。

3 年次で履修する張 弘（宮首弘子）教授の「中国語通訳概論」では、日本人学生 15 名と留学生 22 名がペアやグループになり、課題に取り組んでいます。

授業では、文化など身近な話題の他に、時事を取り上げ、中国語・日本語への通訳を行います。国内の憲法改正論を取り上げ、通訳の第一段階で必要となる内容の論点整理をグループで日本語で行ったり、中国の「一帯一路」経済圏構想に関する習 近平国家主席の演説を日本語に通訳したりもします。

学生たちは留学生と話題を共有し、客観的に説明し合うことで、日本、中国、世界の今を知り、国や立場によって見解が異なることを理解していきます。

前期の最終授業では、中国に留学した学生と日本に留学中の中国人学生がそれぞれ「自国に持ち帰りたいもの」をテーマに、

学生に聞く！中国語学科の魅力

言葉を学ぶもの同士 互いに高めあえた



4 年 今村 有希 いまむら ゆうき
入学してから中国語を学ぶ。上海外国語大学、カナダ ビクトリア大学に留学。中国語・英語の 2 ケ国語を磨く。アジアや世界に事業を展開する半導体メーカーに内定

今村：授業ではよく留学生とペアで課題に取り組みました。発音やネイティブの表現をその場で学ぶことができました。

曹：日本語に訳す際の適切な表現、助詞の使い方など細かい点まで覚えられたのはペアを組んで学習できたからです。

授業では、アメリカ新大統領の就任演説の日本語訳にも挑戦するなど、時流に沿ったテーマで学ぶことができました。

留学中の環境が体験できるキャンパス

今村：中国語サロンや交流プラザにはいつも留学生がいるので、留学中と同じように毎日中国語に接しています。

異国で生活する中で得た気づきを母語から外国語に訳してプレゼンテーションし、質疑応答を行いました。

張教授は、「異文化交流を通して、互いの相違点に気づき、それを言語化して伝える。それが通訳の根底にあることを理解してほしい」と話しています。

3 年次の夏に HSK* 5 級を取得したので、語学力を保ちつつ、上の級を目指して勉強中です。

* HSK:世界で受験可能な中国政府認定の中国語検定。最高 6 級。5 級はビジネスで語学を生かせるレベル



4 年 曹 晨晨 ソウ シンシン
協定校北京語言大学から 3 年次編入学。3・4 年次を杏林大学で学び、北京語言大学とのダブルディグリーを取得予定。日本の大学院で日本語教授法の習得を目指す

曹：杏林大学は、授業や中国語サロンで日本人学生と自然と交流できるのが良いところです。母校の北京語言大学に留学中の中国語学科の学生とは、留学前と変わらず今でもメールで連絡を取り合い、アドバイスをし合っています。

また、杏林には広東や大連など中国各地から優秀な学生が留学しています。中国国内ではできない交流ができる点も嬉しいです。

